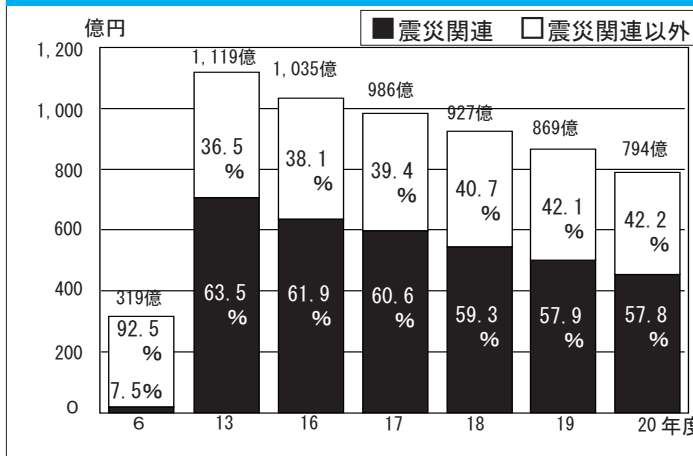


市債残高について

市の借金にあたる一般会計の市債残高については、震災関連事業の実施に伴い急増し、ピーク時の平成13年度末には1,119億円に達しましたが、震災関連事業が一段落したことから、平成14年度以降減少に転じ、平成20年度末残高は前年度と比較して約75億円減少し、794億円となりました。

なお、794億円のうち震災関連の借入れは459億円(57.8%)となっています。今後とも、新たな市債の発行は必要最小限にとどめる等により、市債残高の一層の縮減を図っていきます。

市債残高の推移



健全化判断比率および資金不足比率を算定

健全化判断比率では基準を超える比率はありませんでしたが、実質公債費比率や将来負担比率については、決して良好とは言えない数値ではありません。

公債費(借入金の返済)が平成22年度をピークに減少し、これらの指標も改善される見込みですが、経済情勢等を考えると、予断を許すものではありません。資金不足比率につきましては、資金不足を生じている公営企業会計はありませんでした。

健全化判断比率 (単位: %)

	19年度	20年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	12.20	20.00
連結実質赤字比率	—	—	17.20	40.00
実質公債費比率	20.0	19.9	25.0	35.0
将来負担比率	216.7	206.7	350.0	

- 【実質赤字比率】一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
標準財政規模: 地方公共団体において標準的に収入される一般財源の規模
- 【連結実質赤字比率】全会計を対象とした実質赤字(または資金の不足額)の標準財政規模に対する比率
- 【実質公債費比率】一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模に対する比率
- 【将来負担比率】一般会計等が将来負担すべき負債の標準財政規模に対する比率



タマズダレ

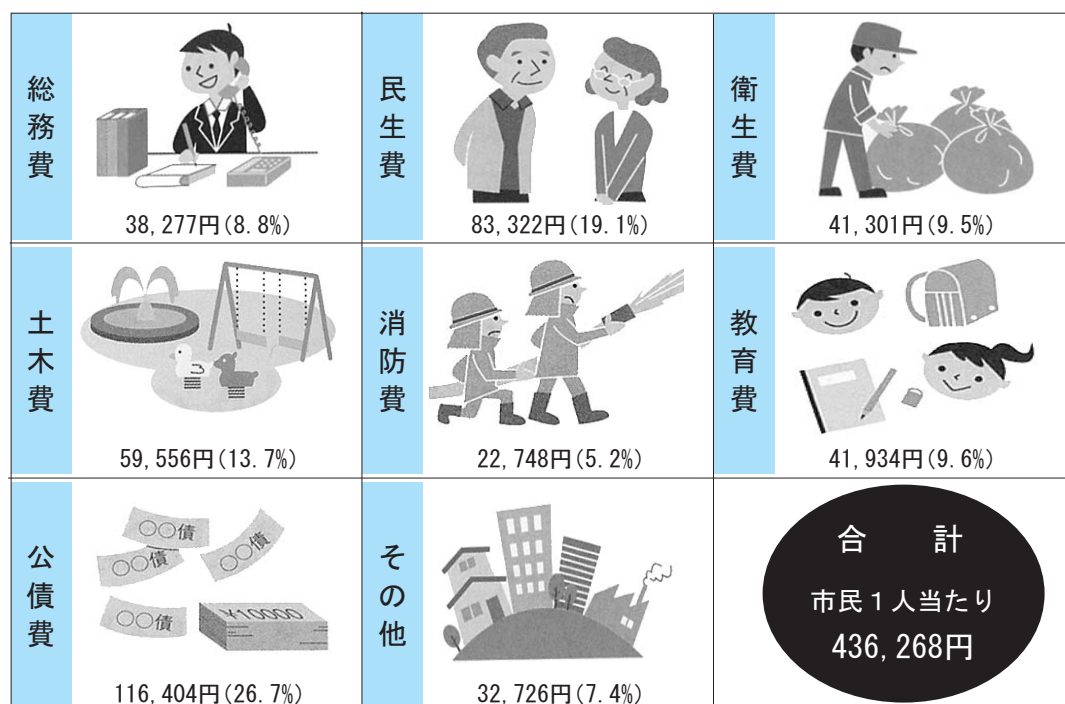


◆平成20年度 一般会計決算概要◆

芦屋市の財政状況

問い合わせ 財政課 ☎38-2011

市民1人당りに使われるお金は 436,268円



【総務費】 市役所全体の事務費や税金の徴収戸籍および住民票・選挙等に要する経費です。基金市の預貯金への積立金の減少等により、九億七千五百六十五万一千円(21.5%)減の三十五億六千八百六十六万二千円となりました。

【民生費】 福祉等に要する経費です。九千六百三十七万四千円(1.3%)増の七億七千七百八十八万六千円となりました。

【衛生費】 保健やごみ処理等に要する経費です。芦屋病院関連経費の増額等により、一億六千三百三十七万一千円(4.4%)増の三十八億四千九百九十五万三千円となりました。

【土木費】 道路や都市計画・公営住宅等に要する経費です。街路事業の工事規模がピークを超えて縮小していることや、南芦屋浜の公園用地取得費が減少したこと等により、十一億九千六百一十一万三千円(17.7%)減の五億五千五百五十九万八千円となりました。

【消防費】 消防救急や災害対策に要する経費です。新消防庁舎の建設費の支出等により、十億六千四百一十七万七千円(90.3%)増の二十一億二千四百九十九万九千円となりました。

【教育費】 学校や幼稚園・その他社会教育に要する経費です。十九年度には精道小学校整備事業等の大型工事がありましたが、事業の完了により、二十年度は施設整備事業が大幅に減少したため、教育費全体では七億五千四百四十四万九千円(16.1%)減の三十九億八千九百八十八万八千円となりました。

【公債費】 市債借入金の元金や、利子の支払いに要する経費です。五億五千九百四十七万九千円(5.4%)増の百八億五千九百四十七万九千円(42.2%)に達しました。震災時に発行した多額の市債の償還期日が到来しているため、年間の公債費の支払いが多くなっていますが、平成二十二年にピークが訪れた後は減少に転ずる見込みとなっています。

【その他】 前記以外の経費で、議会費や商工費等が含まれます。公共施設用地を特別会計から買い戻したことに伴い、二十一億七千七百九十九万九千円(24.9%)増の三十億五千六百五十九万九千円(42.2%)に達しました。

【市税】 市民税は歳入全体の約半分(53.1%)を占めます。個人市民税は景気後退により法人市民税は減少しましたが、市民税が個人所得が伸びたことにより増加しました。固定資産税都市計画税もやや増加し、市税全体では五億六千九百二十七万二千円(2.7%)の増加となりました。

【歳入】 二十年度の一般会計歳入決算額は四百六億六千七百六十三万一千円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。

【歳出】 二十年度の一般会計歳出決算額は四百六億六千六百六十八万六千六百六十八円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。

歳入

【市税】 市民税は歳入全体の約半分(53.1%)を占めます。個人市民税は景気後退により法人市民税は減少しましたが、市民税が個人所得が伸びたことにより増加しました。固定資産税都市計画税もやや増加し、市税全体では五億六千九百二十七万二千円(2.7%)の増加となりました。

【地方交付税】 普通交付税の減少により二億四千八百二十二万二千円(10.2%)減の二十一億五千九百九十九万六千円となりました。

【国県支出金】 国や県から交付される補助金や負担金等です。山手幹線事業に充てる地方道路整備臨時交付金の減少等により七億七千七百六十二万三千円(2.7%)増の三十九億八千九百八十八万八千円となりました。

【譲与税・交付金】 株式会社等譲渡所得割交付金や配当割交付金の減少等により、一億九千三百四十六万六千円(10.7%)減の十六億四千九百九十九万三千円となりました。

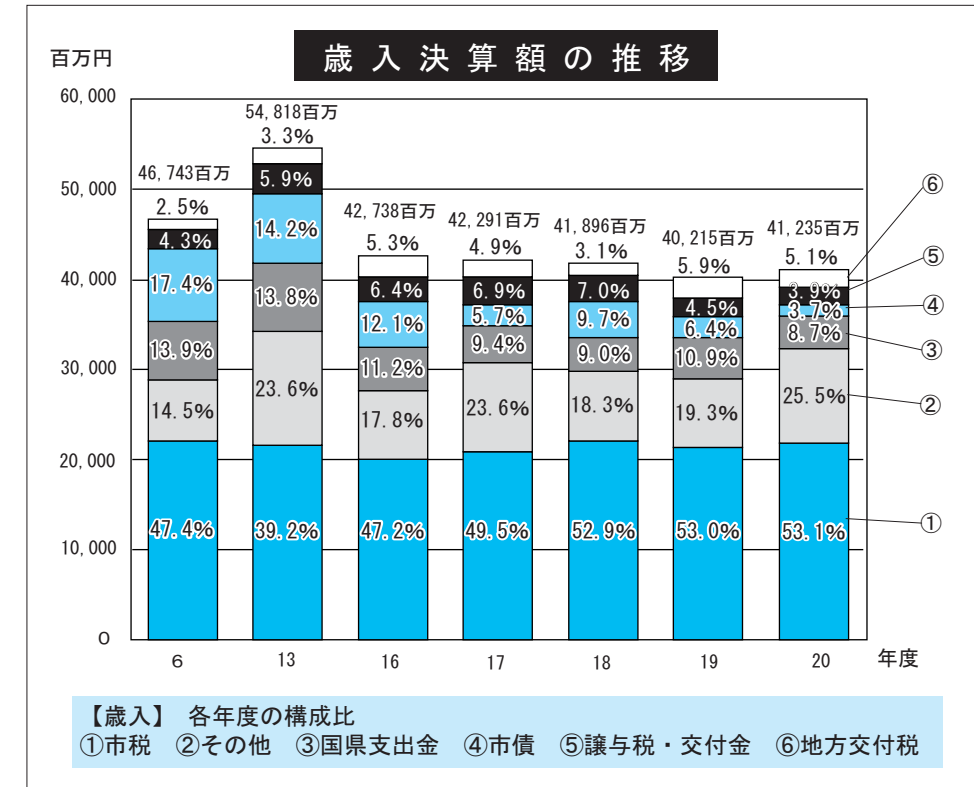
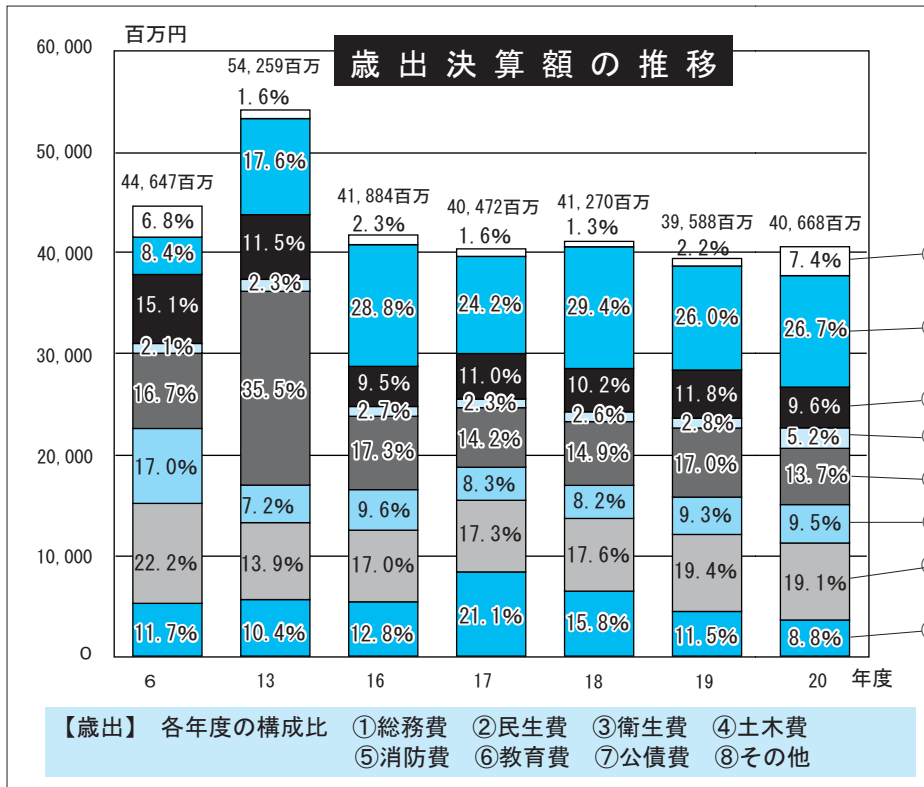
【借入金】 借入金です。前年度と比べ十億九千二百二十二万八千円(42.1%)減の十四億九千八百八十八万五千円となりました。

【その他】 前記以外の収入で、寄付金や手数料収入等です。基金の取り崩しが増加したこと等により、前年度と比べ一億七千七百六十二万三千円(2.7%)増の三十九億八千九百八十八万八千円となりました。

歳出

【歳入】 二十年度の一般会計歳入決算額は四百六億六千七百六十三万一千円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。

【歳出】 二十年度の一般会計歳出決算額は四百六億六千六百六十八万六千六百六十八円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。



今回は、平成20年度決算の概要をお知らせします。平成20年度は、市債残高を減少させることにより、将来の負担軽減を目指しながら、「安全」と「環境」を重点項目と位置付け、また、保健・福祉、教育にも配慮しつつ、これまで懸案となっていた諸課題の解決を図ることを基本方針として、行政運営に取り組みました。

平成20年度の主な事業

- 学校の耐震整備や空調化をはじめとした施設整備を実施
- 新消防庁舎の施設整備を実施
- 「ブック・ワーム(本の虫)・芦屋っ子」の育成を目指した「子ども読書の街づくり」事業の取り組み
- 高齢者バス運賃半額助成制度の復活
- 妊婦健康診査の助成回数および助成限度額の拡充
- JR芦屋駅西の第一跨線橋の改修工事

歳入

【歳入】 二十年度の一般会計歳入決算額は四百六億六千七百六十三万一千円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。

【歳出】 二十年度の一般会計歳出決算額は四百六億六千六百六十八万六千六百六十八円で前年度に比べ十億七千九百三十四万三千円(2.7%)の増加となりました。

20年度の実質黒字は 二億千九百九十二万八千円に

100年に1度の経済危機の中で...

平成20年度 決算のあらまし

項目	説明	金額(千円)
①歳入総額	1年間の収入の総額	41,235,180
②歳出総額	1年間の支出の総額	40,667,631
③歳入歳出差引(①-②)	収入から支出を引いた額	567,549
④繰越財源	平成21年度継続事業に充てるお金	355,621
⑤実質収支	実質的な黒字額	211,928